

先生は「敵」ですか、「味方」ですか

村上市立平林中学校三年 野澤 美優紀

私たち中学生にとって、学校で毎日のように顔を合わせる先生方。その先生方は、みなさんにとってどんな存在でしょうか。

「どんな存在かなんて、特に考えたことはない。」

という人や、

「勉強や部活を教えてくれる人でしょ。」

と答える人が多いかもしれません。

しかし世間では、先生方をまるで「敵」のように捉えている人も多いと聞きます。中にはインターネットの掲示板やツイッターなどで、先生に対する悪口を、すさまじい言葉で載せている中学生もいるということを、私はついこの前知りました。特定の先生に対し、「ウザイ」「ムカつく」などの言葉で攻撃しているという現実には、私はとても驚き、信じられない思いでした。

私は、学校生活を共にしている先生方を、「敵」とか「味方」とか、そういう利害関係で受け止めたことはありません。私にとって先生方は、いわば「家族」のような存在です。「先生」という名の他人ではなく、心のどこかが強くつながっている「家族」です。たしかに先生方は、本物の家族のように毎日一緒に食卓を囲んだり、同じ家の中で過ごすということはありません。人生の中で一緒に過ごす時間も短く、限られています。ですが、それでも私は、先生方のことを「家族」のような特別な存在だと感じます。「家族」だと感じるのは、先生方が私たちのことを心から大事に思っていてくれる。それを実感できるからです。

それはたぶん、言葉だけでは伝わらない種類のものです。誰かが学校を休んだときに心から心配している様子や、うれしいことがあったとき、一緒に笑顔で喜んでくれる姿や、間違っただけをした場面で叱ってくれる本気さや、そんなオーラのようなものが、私たちの気持ちにしみこんでくる。そんな気がします。

少し前に、名古屋でいじめによる中学生の自殺がありました。先生はその新聞を切り抜いてきて、私たちに語りかけました。

「いなくなっただけの子なんか、一人もいないんだよ。」

と言いながら泣いていました。教室の中がシーンとなりました。ここは学校だけど、やっぱりみんなが「家族」だな。私はそう感じました。

また、六月に来られた教育実習の先生が、最後のあいさつで全校生徒に話してくれた内容も、私にとって印象的でした。

「教育実習の中で一番感動したことは、先生方が生徒のことを本当に大事にしているということです。私は自分が中学生のとき、先生方がこんなにも生徒一人一人のことを思っていてくれることに、気がついていませんでした。」

卒業生でもあるこの教育実習の先生の言葉は、とても説得力をもって私の心に響きました。

私たち中学生にとって、本物の家族以外で喜びや悲しみを一緒に分かち合える大人はそんなに多くはないと思います。そう考えると、自然と先生の存在の大きさに気づかされます。

自分たちにとって大事な存在に気づかない。それは寂しく、残念なことです。ネットの掲示板に悪口を書く前に、先生方の思いに気づこうとして下さい。人間と人間の関係は、一方通行では成り立ちません。心をひらいて信頼すれば、きっと信頼が返ってきます。それは友達同士の関係も、先生と生徒の関係も同じではないでしょうか。

私たち三年生は、卒業まであと半年あまりとなりました。「家族」のような先生方と一緒に過ごせる時間も、残り少なくなってきました。一日一日を大切にし、そして、先生と生徒の間にあるすてきな関係を、さらに深めたいと思っています。